

相模親善旗杯大磯照ヶ崎旗杯大磯紅葉山旗杯共通
大会規定

大会理事長 岩田情

1. 大会運営に関する事項

1. 天候や試合会場等の都合により、試合会場、日程、時間等の変更が生じる事があります。
2. 試合開始時間が早まることがあるので、前試合が終了後速やかにベンチ入り出来る様に待機すること。試合開始予定時刻の1時間位前までに到着するのが望ましい。
3. 試合開始予定時刻の30分前までに、主催者または会場責任者に、連絡も無しに会場に来ない時は棄権をしたもとして、相手チームの勝ちとする。
4. 大会に参加する全員が、スポーツ障害保険に加入していなければならない。従って、大会会場及び移動中に起きた。被害事故、加害事故、物損事故等は、各々のチームが加盟しているスポーツ傷害保険の適用を受ける。尚、主催者には、いかなる責任も無いものとする。

2. 競技運営に関する事項

1. ベンチは、組み合わせ番号の小さいチームが1塁側、大きいチームが3塁側とする。
2. 試合中ベンチに入れる人員を下記の通りとする。
3. 指導者は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、マネージャー1名の計6名、選手20名以内とする。選手は必ず、10名以上ベンチに入らなければならない。
4. 試合開始予定時刻の30分前に、本部席もしくはバックネット裏で、主将と監督が同席の上、メンバー表を提出し攻守をジャンケンで決める。尚、メンバー表にはフリガナを記入し、3部提出する事。 ※ 尚シートノックは原則として行わない。
5. 試合はトーナメント方式とし、三位決定戦は実施しない。
6. ルールは最新年度公認野球規則・全日本軟式野球連盟競技者必携及び、大会特別規則を適用する。
7. 投球制限については、投手は1日7イニングまでとする。ただし、特別延長戦に限り、1イニングまで認める。
8. 投球イニングに端数が生じた時の取り扱いについては、3分の1回（アウト1つ）未満の場合であっても、1イニングを投球したもとして数える。
9. イニング数及び試合時間
 - ① 7イニングで90分とする。
 - ② 85分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - ③ 後攻のチームがリードをしていて、なおも攻撃中に85分を過ぎたら試合を打ち切り、後攻チームの勝ちとする。
 - ④ 規定時間を過ぎたときは、イニング数に関係なく正式試合とする。
10. 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差、5回以降7点差とする。
11. 規定イニング数または規定時間が過ぎても同点の場合は、特別延長戦（最長1イニング）を実施する。

※ 大会の運営上7回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合は、特別延長戦を行わず、抽選で勝敗を決定する場合がある。
（この場合は、試合の前にグラウンド責任者から、両チームの監督に伝える。）
12. 特別延長戦は無死満塁、継続打順で行い勝敗が決しない場合は、終了時メンバーの抽選とする
13. 抽選方法
 - ① 試合終了時に出場していた両チームのメンバーが終了あいさつの状態に整列する。
 - ② 抽選用紙に○印、×印9枚記入したものを封筒に入れる。
 - ③ 球審が18枚の封筒を持ち、先行チームより1枚ずつ交互に選ばせる。
 - ④ 審判員が両チームの監督立ち合いの元に開封し、○印の多い方を抽選勝とする。
14. 投手(救援投手を含む)の準備投球は初回に限り6球以内(1分を限度)が許される。次回からは3球以内とする。なお、季節または状況により考慮する。
15. ファウルボールは飛んだベンチ側が回収する。またバックネット前は攻撃側が回収する。
16. 金属バット・ヘルメット・マスク・プロテクター・レガース等の用具は、連盟公認の物(JSBBのマーク入り)を使用する。
17. 打者・次打者・走者・及びベースコーチはヘルメットを着用する。
18. 各試合会場では会場ごとに特別グラウンドルールが設定されているので、会場責任者の指示に従うこと。

2016年12月10日 役員会に於いて改訂